

事業名	花き振興促進事業費		
細事業名	研修・展示会開催事業費	財務コード	428602
担当部課室	農政 部 花き農水産 課 花き特産 担当 (内線)		5311

事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 花き生産農家	その対象をどのような状態にして 栽培技術の向上により、高品質、安定 生産が図られている	結果、何に結びつけるのか 花き生産額の増加
	<p>事業の内容 主にH27年度</p> <p>事業目的 企業の農業者から新規参入者まで、幅広い花き生産者に対して研修会や講習会等を開催し、栽培技術の向上や経営知識の習得などを図る。また、展示会場において新品種や新商材等を展示し、産地の育成強化を支援する。</p> <p>事業内容 経営知識の習得を図るための専門研修や栽培技術の向上に向けた講習会の開催 ・専門研修会 4回 参加者数 187人 ・栽培技術講習会 16回 参加者数 205人</p> <p>花きの新品種等の展示や県産花きのPRを図るため、イベントなどで展示会を実施し、花き産地の育成強化を支援 ・新品種比較展示会 3回 参加者数 105人</p> <p>合計 23回 497人</p>		
根拠法令等			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	26年度	27年度		28年度	29年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 研修会・展示会等 への参加者数	466	550	497	600	600	活動指標 目標設定の考え方 過去3年間の実績値の平均に1割加えた設定
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		90.4 %			データの出典等 実績報告書
成果指標 花きの生産額 <百万円>	3,946	3,957	3,983	3,968	3,978	成果指標 目標設定の考え方 新・やまなし農業大綱での5ヶ年の数値目標とした
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		100.7 %			データの出典等 県農業生産額実績
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	3,502		2,800	4,065	3,668	成果指標によらない成果
所要時間(直接分)	518 時間		518 時間	518 時間	518 時間	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	518 時間		518 時間	518 時間	518 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,044円×所要時間)	1,059		1,059	1,059	1,059	

これまでの事業の見直し・改善状況

H14年度からフラワーセンターの運営と併せて農業振興公社に事業を委託していたが、H18年度にフラワーセンターが指定管理者制度に移行されたことに伴い、本事業が総合農業技術センターの所管に戻った。H20年度に、効果的な事業実施を図るため、生産者向けの研修会及び展示会に重点化し、一般向け研修の廃止と展示内容の見直しを行った。H24年度からは県オリジナル品種の早期産地化を図るため、現地適応性の確認と併せ、品種の展示会を開催するなど生産者のニーズにあった内容の見直しや改善を実施している。

活動量と成果の判断(平成27年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定 H27年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H27年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること 花き生産者に対して栽培技術や経営知識の向上のための研修会や新品種展示会を実施し、平成27年度の生産額実績は、目標値に比べ、100.7%と増加していることから、意図した成果はほぼ上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
無	生産者の経営安定を図り、力強い産地づくりを推進するためには、生産コストの削減をはじめ、安定生産技術等の普及を効果的、効率的に行う必要がある。また、新品種の導入は、経営リスクが大きいいため、生産者に取り組みやすい環境を整える必要がある。そのため、消費者ニーズの変化に的確に対応できるよう、今後も研修会や講習会、新品種の展示会など引き続き実施していく必要がある。さらに、クリスマスエリカやピラミッドアジサイなど県が開発した技術や品種を早期に普及させるためにもノウハウの蓄積がある県が実施することが最も効果的である。	

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: 7Qの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	専門研修会や栽培技術講習会、新品種比較展示会については、業界団体との連携を密にし、より効果的かつ効率的な運営ができるよう、開催回数や内容の見直しを検討していく。 また、研修会や展示会の開催支援については、終期を設定し、継続の必要性の検証を行うとともに、一部については、業界団体や花き生産農家等の企画立案によるものとし、運営についても自立的に取り組んでいく体制づくりを進める。	l, m

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	専門研修会や栽培技術講習会、新品種比較展示会について、今後、業界団体との連携を密にし、より効果的かつ効率的な運営ができるよう、開催回数や内容の見直しを検討するとともに、事業内容の一部については、業界団体や花き生産農家等の企画立案によるものとし、運営についても自立的に取り組んでいく体制づくりを進める。 特に、栽培技術講習会や展示会の開催支援については、県が育成したオリジナル品種等の早期産地化や品質向上を図るため、積極的に実施する必要がある。そのため、3年毎に、県として重点的に取り組むべき生産振興品目等を設定することとし、設定品目等に応じた講習会や展示会等を開催するとともに、その内容等について見直し検討を実施していくものとする。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名:花き農水産課

細事業名:研修・展示会開催事業費

調書番号:12

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H27 所要時間 (h)	H28 所要時間 (h) A	H29 所要時間 (h) B	縮減等 B - A	具体的業務の見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 研修会・講習会等の開催	企画・立案	4月～2月	120	120	120	0	なし	業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	講師等との打合せ	4月～2月	40	40	40	0	なし	
	資料作成	4月～2月	120	120	120	0	なし	
	会場等の設営・片付け	通年	40	40	40	0	なし	
	運営	通年	60	60	60	0	なし	
	支出事務	通年	50	50	50	0	なし	
						0		
(小計)			430	430	430	0		
2 新品種展示会の開催	企画・立案	4月～6月	24	24	24	0	なし	業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	関係者との打合せ	4月～8月	10	10	10	0	なし	
	資料作成	8月～11月	24	24	24	0	なし	
	会場等の設営・片付け	9月～12月	8	8	8	0	なし	
	運営	9月～12月	12	12	12	0	なし	
	支出事務	9月～12月	10	10	10	0	なし	
(小計)			88	88	88	0		
所要時間 (計)			518	518	518	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)